

名品コレクション展 I（後期）

2025 年 7 月 5 日（土）～ 9 月 7 日（日）

エコール・ド・パリ フランスという場所

赤い壁の部屋にある絵の多くは、今からおおよそ 100 年前にかかれた絵です。フランスのパリには、たくさんの画家が集まり、互いにはげまし合いながら、自分の絵を追い求めました。

多くの画家は、パリのモンマルトルという場所に暮らしていました。モンマルトルで生まれ育ったモーリス・ユトリロは、モンマルトルの景色をよくかいています。ユトリロがかいた「ノルヴァン通り」は、モンマルトルにある道の名前です。ノルヴァン通りを進むと、モンマルトルで有名な、サクレ・クール寺院という建物があります。ユトリロの《ノルヴァン通り》にも、サクレ・クール寺院がかかれています。見つけてみてください。

パリにあるモンパルナスという場所にも、多くの画家が暮らしました。このモンパルナスに集まった画家たちのことを、フランス語で「エコール・ド・パリ」と呼ぶことがあります。シャガールやスーチンはロシア（今のベラルーシ）から、モディリアーニはイタリアから、パスキンはブルガリアから、キスリングはポーランドからと、さまざまな国から、さまざまな画家がこのモンパルナスに集まりました。その中には、日本人の画家もいました。藤田嗣治は、日本人の中でも、いち早くパリに行って、パリの人気者になりました。稲沢市出身の荻須高德も、自分の目で見たフランスの風景をたくさんかいています。

同じ時代に、フランスに集まった彼らの絵をながめてみてください。個性ゆたかな作品から、それぞれの画家が、「自分だけにしかことのできる絵」を目指していたことを感じてもらえたらうれしいです。

現代の美術

ニューヨークの日本人作家たち

白い壁の部屋には、大きな作品がたくさんあります。特に今回は、今から 70 年ほど前に、アメリカのニューヨークという地に行った日本人アーティストたちの作品を紹介しています。その中に、愛知県で生まれたアーティストが 3 人います。桑山忠明、荒川修作、河原温です。

桑山忠明《無題》1969 年

この作品には、ある物や人、景色はかかれていません。黄色と白、銀色のフレームでできた作品の前に立って、みなさんは、どんなことを感じるでしょうか？ 遠くから見たり、いろんな角度から見たりして、感じることは変わるでしょうか？

荒川修作《35 フィート×7 フィート 6 インチ、126 ポンド No.2》1967-68 年

一番長い壁にかかっている大きな作品。7 枚のパネルでできていますが、1 枚ずつ見てみてください。それぞれに、いろんな言葉が英語でかかれています。これらの言葉から、どんなことをイメージするでしょうか？ 景色を想像してみたり、ストーリーを考えてみたりしてもいいかもしれません。そして 7 枚のパネルには、大きな文字が 1 つずつかいてあります。それらをつなげるとできる言葉は「MISTAKE」。はたして何が「まちがい」なのでしょうか…？

河原温《カム・オン・マイ・ハウス》《私生児の誕生》1955 年

ひし形をゆがめたような形の作品が 2 つ並んでいます。人間の体と何かの部品のようなものが、画面いっぱいひしめきあっています。この作品がかかれたのは、戦争が終わってから 10 年後。絵の中の人々たちは、どんな気持ちなのでしょう？ あるいは気持ちはあるのでしょうか？

にんげん
人間のちから

ねん しゃかい ひとびと おお
 メキシコは1910年に、社会のしくみや人々のくらしが
 大きく変わること（革命）がありました。芸術家もこうした世の中
 の変化を経験し、国の歴史を知り、それぞれの見方で人々の
 姿を表しました。

だビッド・アルファロ・シケイロスがかいた絵の母と子のこわ
 ひょうじょう きけん せま
 がる 表 情 から、2 人には危険が迫っていることがわかります。
 ちからつよ ははおや うで こ まち つよ おも
 力 強 かくれた 母 親の 腕は、子どもを守ろうとする強い思
 かん ひとひと けいけん
 いが感じられます。シケイロスは、メキシコの人々が経験した
 せいかつ くる し え
 きびしい生 活や苦しみを知り、絵をかきました。
 きたがわたまじ ねん い びじゅつがっこう せんせい
 北 川 民 次は、1921 年にメキシコに行き、美術 学 校で先生
 おとこ せいと きたがわ おとこ
 をしました。かかれた 男 は生徒のひとりです。北川は、男 を
 み つか お
 しっかりと見て疲れや老いもかくさずにかいています。

わたし ひと で あ わか けいけん せいかつようしき
私 たちは 人 たちの 出 会 い、 別 れ を 経 験 し ま す。 生 活 様 式 や
ひと と び と かんが かな と き す こ と
人 々 の 考 え 方 に よ っ て、 そ の 時 を ど の よ う に 過 ぐ す か は 異 な
り ま す。 し か し、 出 会 い の 喜 び、 別 れ の 悲 し み、 い つ く し み、
かんしや お ち お な わ か
感 謝 と い っ た 思 い は 同 じ で し ょ う。 ディエゴ・リベラ は、 別 れ
と き な ひと はい ひ つ ぎ
の 時 を か い て い ま す。 亡 く な っ た 人 が 入 っ て い る 棺 と と も に
す す ひと と び と じ ょ う ふ ひと と び と い う し ゅ し ゅ
進 む 人 々 の 上 部 だ け を か き、 さ ま ざ ま な 人 々 が 一 緒 に 静 か に
あ る あ ら わ づ づ
歩 い て い る こ と を 表 し て い ま す。

ルフィーノ・タマヨは、メキシコの人々に長くつたわる芸術（民衆芸術）を知ることで、線と色が画面で響きあう、タマヨらしい自由な見方での姿を表しました。

フランシスコ・スニガは、メキシコに ^{むかし}昔 から住んでいる
ひとと ^{せんじゅうみん}せんじゅうみん ^{じょせい}女性 をもとにした ^{きょうこく}彫刻 をつくりまし
人々（先住民）の女性をもとにした彫刻をつくりまし
た。おなかのふくらみはわかりますが、 ^{ぬの}布 を ^き着せることで ^{からだ}体
のかたちをあいまいにしています。しずかに ^{りょうあし}両足 でしっかり
と立つ ^{すがた}姿 です。

きょうど びじゅつ
郷土の美術
ほり おみのる
堀尾 実

まずは、部屋を見わたしてみてください。この部屋にある
さくひん　ひとり　が　つく　　　　　　が　なまえ
作品は、すべて一人の画家が作ったものです。その画家の名前
ほりおみの　な　ごやう　じちと　が　なまえ
は、堀尾実。名古屋に生まれた地元の画家として、ぜひ名前を
おほ　かえ
覚えて帰ってください。

ながら　　さくひん　　みに　　なに　　え
 並んでいる作品を見ると、「何をかいた絵なんだろう？」と
 おも　　ほりおみのる　　ふし　　ぎ　　かたち　　じゆう
 思うかも知れません。堀尾　実　は、不思議な　形　を、ただ自由に
 かいているわけではありません。それぞれの絵には、元となる
 ものがあります。たとえば、《作品 B（2）》という絵は、　魚
 い　　かくど　　み
 を入れておくためのカゴを、いろんな角度からよく見ていてい
 ほりおみのる　　かくど　　み
 るのです。堀尾　実　は、あるものをいろんな角度で見たときの
 かたち　　いろ　　うご　　み　　じぶん　　め
 形　や色、ものの動き、ものを見るときに自分の目にはどんな
 お　　かん　　え　　うつ
 ことが起こっているのだろう？ということを感じとり、絵に写そ
 うとしています。

「フォト・コラージュ」という作品をぜひ見てみてください
 さいひん み
 さい しやしん き ふたた
 い。これは、1枚の写真をばらばらに切ってから、再びはり
 ちもと しやしん
 づけています。ただ、パズルのように元の写真にもどすのでは
 たが あいだ じゆう
 なくて、互いのかげらの間を自由にあけて、はりつけていま
 さいひん み ちゅうもく
 す。この作品を見たとき、みなさんはどんなところに注目す
 まえ しやしん そうそう
 るでしょうか？ばらばらになる前の写真を想像するでしょう
 あいだ しろ せん ちゅうもく
 か？かけらの間にできた白い線に注目するのでしょうか？ば
 あ けしき おもしろ おも
 らばらにはり合わされてできた景色を面白いと思うでしょう
 ちゅうもく か み けしき か
 か？注目するところを変えると、見える景色も変わるのでは
 め うご たの
 ないでしょうか？その目の動きをぜひ楽しんでください。